

卒業資格単位確認表(2020年度入学生用)

文化学科

	領域	授業科目等	履修年次と単位数								単位修得済み	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
教養教育科目	必修	アクティブ・ラーニング	スタートアップPBLセミナー	2							YES□	
			教養セミナー		2							YES□
		外国語教育	英語 I	6								YES□
		異文化理解※1	異文化理解 I 又は I・II	4		4						YES□
		健康科学	スポーツ健康科学	1	1							YES□
		基礎教育	情報科学基礎	2								YES□
		キャリア教育				2						YES□
	教養統合	地域理解・日本理解 ※2				12						YES□
		国際理解・現代社会理解 ※2										YES□
		現代科学理解				4						YES□
	選択	教養基盤科目	外国語教育	英語 II							YES□	
			異文化理解	異文化理解 I・II・III								
			健康科学	スポーツ健康科学概論								
		キャリア教育		4								
		教養統合科目	地域理解・日本理解									
			国際理解・現代社会理解									
現代科学理解												
専門教育科目	必修	地域から考える文化と社会	2							YES□		
		文化学研究総論		2							YES□	
		専門PBLセミナーA(地域学セミナー)			2							YES□
		専門PBLセミナーB(文化学セミナー)			2							YES□
		文化学必修科目	基礎	8						YES□		
			発展					4				YES□
		地域必修科目※3						16				YES□
		演習						12				YES□
	卒業研究								6	YES□		
	選択	自由選択科目					30				YES□	
卒業に必要な総単位数							128					
卒業要件としてのインターンシップ											YES□	

※については別紙に注意事項があるので各自注意願います。

各色が別紙の文字色と適合し、該当箇所を表しています。

・教養教育科目で修得すべき単位の中で注意を要するものは以下のとおりです。

※1 「異文化理解」:

1 カ国語のみで 8 単位を揃える場合 → ドイツ語、フランス語、中国語にて可能。

複数の外国語で 8 単位を揃える場合 → 全メニューから 2 カ国語を選び、各 4 単位を

履修してください。但し、3 カ国語以上での組み合わせは不可。

良い例○:ドイツ語 8 単位

○:中国語 4 単位・朝鮮語 4 単位 計 8 単位 etc.

悪い例×:ドイツ語 4 単位・中国語 2 単位・朝鮮語 2 単位 計 8 単位 etc.

※2 「教養統合科目」

「地域理解・日本理解」の科目を 4 単位以上、かつ「国際理解・現代社会理解」の科目も 4 単位以上修得する必要があります。

なお、残る 4 単位のうち、2 単位を「キャリア教育」の科目で置き換えることができます。

・専門教育科目で修得すべき単位の中で注意を要するものは以下のとおりです。

※3 地域必修科目:16 単位を「セット履修」する必要があります。

同一名称の科目を履修するときの注意:2 科目 4 単位(会話・作文の場合は 2 科目 2 単位)で 1 セットと考え、1 セット履修したときはじめて地域必修科目の単位として認められます。1 セットに満たない場合や、1 セットを超えて履修した場合には、下記の例のように、自由選択科目の単位として扱われます。

例:同じように 16 単位修得した場合でも

○:必要単位数を満たす

日本の思想 A	2 科目
日本の思想 B	4 単位
日本の歴史 B	2 科目
日本の歴史 F	4 単位
日本の文学 A	2 科目
日本の文学 B	4 単位
日本の社会 A	2 科目
日本の社会 D	4 単位
地域必修科目	16 単位修得

×:必要単位数を満たさない

日本の思想 A	2 単位	
日本の歴史 B	2 単位	2 科目 4 単位
日本の歴史 C	2 単位	
日本の歴史 D	2 単位	
日本の歴史 E	2 単位	
日本の文学 A	2 単位	2 科目 4 単位
日本の文学 B	2 単位	
日本の文学 N	2 単位	
地域必修科目	8 単位	
自由選択科目	8 単位	

※自由選択科目にカウントされる理由

・日本の思想 A は、1 科目 2 単位しか修得していないため(1 セットに満たないため)。

・日本の歴史 D、日本の歴史 E、日本の文学 N については、同科目の 2 科目 4 単位を修得済みのため(1 セットを超えて履修したため)。

なお、セット履修で正しく 16 単位を修得し、さらにそれを超過して履修した場合には、その超過して履修した地域必修科目の単位は、自由選択科目の単位として扱われます。

教養・専門教育科目いずれの場合においても、成績通知書・証明書における下段の単位数は、卒業条件等に即した単位数ではなく、修得した単位数すべてをカウントしているだけであり、上記の×のような例の場合でも「地域必修 16 単位」と表記されるので、注意が必要です。